



Challenge!

# 誇り高き獅子たち

## 先輩 Interview

### 半田建設株式会社

工事部

●入社10年 高島 朋稔さん

常務取締役 営業部長

●入社25年 田中 由岳さん

久留米市で創業65年を越えた半田建設株式会社(代表取締役 半田利通)。今回は、そこで働く入社10年の高島さんと田中部長に話をお聞きしました。

久留米市の工業団地の一画にある、工場と事務所が合体した建物の工事現場は、6月の引き渡しに向け、最終仕上げに入っていました。

高島さんは鳥栖工業高校建築科を卒業後、半田建設に入社。入社を決め手は、実家から通ってバリバリ仕事ができること。10年前、入社してすぐの頃、現場の職人さんから「ねこ(一輪車)持ってきて」と言われたそうです。「ねこ...?」。こんなふうに、学校で習った道具の名称と現場で職人さんが使う名称が違うことに困惑する場面もしばしばあったとか。田中部長は「誰でもぶつかる経験やな」と笑顔でひとこと。そして、入社3年経った時、建設の仕事が続けるのは厳しいかな...と悩む時期がやってきました。工期が厳しい現場、休みが取れない、夜遅くまで仕事がある、そんなことが重なり、「自分には無理かも...」。「今振り返ると、入社3年ぐらいはまだ仕事の段取りや交渉もへたくそだったんですよ。今なら、なんてことはありません」ときっぱり話してくれました。



新入社員の中島啓吾さん(右から2番目)は、多少緊張気味でしたが、みなさんの朗らかな笑顔から、風通しの良さを感じました。

一緒に仕事ができ良かった、そんな存在になりたい



半田建設株式会社 工事部  
高島 朋稔さん

「4年ぐらい前、『初めて自分でやった!』と思った忘れられない現場があり、そこから一気に仕事がおもしろくなってきました。現場の上司から物事を進める際、「どう思うや?」「他にやり方はないや?」など、意見を求められるようになり自分の考えを伝えるチャンスが増えてから、部外者から当事者として仕事を捉えることができるようになったのかなと思います」  
存在意義を認められ、必要とされた時に、仕事に対する自信がついていくと言います。

「自分に合わない仕事だといって辞める人もいますが、基本、自分に合う仕事はないんです。仕事に自分が合わせる、寄り添うことでその仕事が自分のものになっていくと思います。仕事は、紆余曲折、大変な時もあるけれど、今の仕事を真面目に取り組んでいけば、自分の居場所、存在意義は見つかります」  
入社したてはおとなしい社員だったそうですが、10年のキャリアを積み、これからの半田建設を背負って立つホープとして、力強いメッセージを送ってくれました。

DREAM  
建設業の醍醐味は同じ会社じゃない職人さん達とも、志を同じくして、「完成」というゴールに向け仕事をしていくところ。そしてそのご縁が一生の宝になるところです。将来は、一級施工管理技士の資格を取得して、現場監督として仕事をし、高島と仕事がしたい、そう思っています。

目標を持ち、失敗を恐れずチャレンジすることは成長の種

常務取締役 営業部長 田中 由岳さん

一級建築施工管理技士、一級土木施工管理技士、宅地建物取引主任者の資格を持ち、25年近く、現場で施工管理の道一筋やってこられた田中部長。現場服からスーツ姿に変わり、最初は落ち着かない感覚もあったそうですが、今は、営業職のトップとして会社を支える重要な役目を担っています。



高島くんは、かなりしっかりしてきたと思いますよ。この春の会社説明会では、説明役として高島くんを抜擢しました。学生の年齢にも近く、自分もいろいろ経験しているので、体験から出る言葉には説得力を感じます。若い人には「自分の目標を持つことが大事、目標を決めたら、そこに向かってチャレンジしていく、その時に、失敗を恐れないでほしい」と伝えていきます。一人で悩まないで、困ったら周りの先輩方に相談しながら進めていくと、必ずいい方向に向かうと思います。



工事主任の山田博典さん(左)。半田建設には、工事主任が20数名の中で、高島さんの最初の上司が山田さんでした。現場を共にすることで、その成長ぶりがわかると思います。



完成間近の建物を、それぞれの思いを胸に見つめる3人。工事を振り返り、大変だったことなどで、話もちぎさり。

